

人が関わってくれた。」「沖で初めて親戚ができたとうた」とうれしそうに振り返る。

2017年に書記となり、翌年から新聞を発行し、出来事を淡々と伝える方、阿野さん独自の目線も盛り込んだ記事もある。旧正月のカーウガミ（川拝み）では、若者に行事の意図を何度も説明する高「伝統行事を」と当時「した」と当時に残している

「嘉陽の人事を少しはなな」と照れくまな新聞発行は後今後も続く。月から名護市浦パークで「コーヒー」

念ミ大4さ。か行 回感残 込

2021年4月14日付、琉球新報25面

# 「ひなん橋」渡り初め

## 恩納・名嘉真 災害時にも利用



「ひなん橋」完成で渡り初めをする関係者ら。3月28日、恩納村の名嘉真区

【恩納】恩納村の名嘉真区に完成した「ひなん橋」の渡り初めが3月28日、小雨が降る中、規模を縮小して行われた。橋のたもとの関係者が見守るテントの前で、恩納村の長浜善司村長、名嘉真区の我那覇強区長、同区の奥間政英評議員議長

の3人がテープカットした。渡り初めは前区長の仲嶺真武さんと仲田豊村議会議員も加わり、パトカーを先導に5人で行われた。

この橋は名嘉真川に架かる2番目の橋で、地域の人たちの強い要請もあり、3年かけて完成した。この橋

を渡ると、2017年10月に完成した高台にある名嘉真区多目的施設へつながる道に通じる。

我那覇区長はいさつで「区民が待ち望んでいた橋が完成し、津波などの災害時の避難橋として役立つ。区民の皆さんには普段も大いに利用してほしい」と話した。（小山猛三郎通信員）

### つつじ園40年 記念誌を発刊

#### 東、新聞記事や座談会掲載

【東】東村役場の関係者らはこのほど、東村村民の森つつじ園の開園40周年記念誌「花物語」を発刊した。同園に関する記念誌の発刊は初めて。

記念誌には、これまで開かれたつつじ祭りの様子、関連する新聞記事などを掲載。造成に関わった人のイ



インタビュー、座談会なども収録されている。編集委員長を務めた山城定雄さん(68)と写真左は「子どもから高齢者までがつつじ園の造成に関わり、約6年かけて完成させた。その過程も知ってもらいたい」と思いを込める。記念誌は役場や公民館などに配布する予定。

### 大城、宮城さんに 名護署が感謝状

#### 少年の健全育成で功労

【名護】名護署は3月19日、長年にわたり、少年補導員を務めた名護市の大城勝章さん(75)と国頭村の宮城忠信さん(60)に感謝状を贈呈した。写真は、山内敏雄署長(当時)は二人の活躍で名護署管内の少年検挙

### にバンクシー?

【今帰仁】まさか、こんなところに？ 素性不明の芸術家バンクシーの作品に似た絵が今帰仁村にひっそりと描かれているのが見つかった。

近隣住民などによると、落書きが見つかったのは1

### 村玉城内に、1年以上前から

「乙羽トンネル」付近の県道72号から細い脇道を下った場所で、人通りは少ない。

琉球新報社

# 子どもたちの育ちと学びに 支援の輪を

## りゅうちゃん子どもの希望募金

琉球新報社は2015年末から紙面で「子どもの貧困」問題キャンペーンを展開し、それを機に県共同募金会と連携して2016年1月からりゅうちゃん子どもの希望募金を始めました。子どもたちの安心した生活と未来を